

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



↑こちらからも↑

令和6年 9月 2日(月) 発行人：校長 森内 秀学

アウトプットで、自分を高める2学期に

いよいよ2学期のスタートです。始業式では、子どもたちにこんな話をしました。

みなさん、授業中に、こんな経験ありませんか。

- ① 分かった!と思って説明していたら、途中で分からなくなったこと。
- ② 分かっているつもりだったのに、聞かれたらうまく答えられなかったこと。
- ③ 分かったことを人に説明したら、前よりもっとよく分かった気がしたこと。

覚えることをインプットと言いますが、自分が考えたり分かったりしたことを、人に説明したり、人と話したりして外に出すことを、アウトプットと言います。

アウトプットすると、分かっていないところがはっきりしたり、よく分かるようになってくるので、勉強ができるようになります。あいさつや返事もアウトプットです。

これは、時津小の二つ目の目標「美しくつながる」とかかわりが深いことです。

思いや考えを人に話すと、相手の様子から、ちゃんと伝わったかどうか分かります。伝わっていないようだと、一生懸命に伝えようとかんばるでしょう。これは、テストで間違ったところをやり直すとよく分かるようになるのと同じで、いつの間にか自分を成長させている、大事な取り組み方の一つです。

また、相手に思いや考えが伝わったら、相手は嬉しそうな顔をするはずで、それを見たら、みなさんも嬉しくなり、うまくできたぞ!と自信が湧いてくることでしょう。

自分に自信がつくと、明るく元気になり、ますます「たい」があふれてきます。

2学期は、自分の思いや考えをどんどんアウトプットすることで、どんどん自分を成長させていきましょう。

家庭でのアウトプットは、ますます効果的です。一緒によりよく育てていきましょう。



体育館に巨大スクリーン寄贈

時津小の卒業生であり、オランダ屋という花屋さんの会長でもあります「川口 義己(よしみ)」さんから、体育館に巨大なスクリーンの寄贈をいただきました。集会や発表会等で、大事に使わせていただきます。体育館にお越しの際は、ぜひ、ご覧ください。

多様性と可能性について学ぶ

夏季休業中、人権教育に係る職員研修の一環として、性的少数者に関する基礎知識や社会の課題、現状の再点検についてオンラインで学びました。



講師は、セクシャリティーにかかわらず、全ての人が自分らしく生きやすい社会を目指して活動する団体「Take it!虹」を主宰する、儀間由里佳さん。違いを大切にし、誰もが生きづらさを感じない世の中にしようと、職員の意識のアンテナが立った良い研修会でした。